

学術論文（受講生筆頭著者）3件

1. Takuma Ikegaya, Mare Yamamoto Spatio-temporal characteristics and focal mechanisms of deep low-frequency earthquakes beneath the Zao volcano, northeastern Japan Journal of Volcanology and Geothermal Research, 417, 107321, 2021 <https://doi.org/10.1016/j.jvolgeores.2021.107321>
2. Kyoka Ishii and Akihiko Yokoo, Combined approach to estimate the depth of the magma surface in a shallow conduit at Aso volcano, Japan. Earth, Planets and Space, 73:187, doi:10.1186/s40623-021-01523-z
3. Yamakawa, K., M. Ichihara, G. Lacanna, C. Sanchez, and M. Ripepe, Very-small-aperture 3-D infrasonic array for volcanic jet observation at Stromboli Volcano, Geophys. J. Int., 229 (1) 459-471 doi:10.1093/gji/ggab487

5. むすび

8 大学および 4 研究機関（研究開発法人・国の機関）で発足した本火山研究人材育成コンソーシアムは、令和 4 年 3 月 31 日現在、17 大学、4 研究機関（研究開発法人・国の機関）、10 地方自治体、3 学協会、5 民間企業から構成されている。受講生も各大学から本プログラムに参加し、幅広い人材の育成を進めている。受講生に基礎・応用コースの授業を提供してから 6 年半、発展コースの授業を提供してから 4 年が経過したが、本プログラムが提供する火山学実習や火山学（特別）セミナーは順調に実施され、他大学授業や火山学セミナーの遠隔からの受講システムも大きな問題なく機能している。また、研究開発法人・国等の機関でのインターンシップや、地方自治体の職員も交えた火山防災特別セミナーも行われている。海外で実施する研修については、本プログラムの開始からイタリアやアジアの活火山で順調に実施することができていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてこの 2 年間実施できてはいない。しかしながら、受講生自身の研究発表などが行われる火山研究特別研修はオンラインでの実施で代替することで、受講生に少しでも国際研究交流をする機会を提供した。このように、この 2 年間、新型コロナウイルス感染拡大という状況下ではあったものの、プログラムはほぼ順調に実施され、次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト令和 3 年度のフォローアップ結果では、本コンソーシアム構築事業は「想定以上に順調に進んでいる」とされ、高く評価された。

火山研究や監視に関する機関、地球科学や防災に関する企業、中学高等学校に就職した人数は、基礎コースまたは応用コースを修了した受講生の 3 分の 2 ほどになり、火山研究や防災に関する人材として社会での活躍が期待される。今後も新型コロナウイルス感染の状況をよく注視しながら、また、できる限り感染防止策をとった上で、受講生にできる限り魅力的な授業を提供できるよう工夫を凝らしていく予定である。